

潮音寺だより

<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/> ナモの寺 検索 ▶
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁目 10-11

第301号
平成20年11月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

choonji@aichi.email.ne.jp



撮影：超空正道

動産に不動産

お金は

欲望を満たす

バッテリー

過剰な充電が

その品質を

劣化さすよう

貯めるだけでは

その人の

品位を傷つける

自らは

欲は少なく

足るを知り

他には

施し与う

慈悲の心を

蓄えていこう

般若波羅蜜②布施

智慧を完成するためには、六つの実践徳目、すなわち、**布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧**の「六波羅蜜」が説かれます。ただ、六番目の智慧波羅蜜こそを最終目標とするわけですから、前の五波羅蜜は、智慧波羅蜜に包括されるべきものであり、それを完成するための準備手段であるといえます。

そこで、順次、五波羅蜜のそれぞれについてお話しさせていただきます。まず今回は、第一番目の布施波羅蜜についてです。

布施のことを、サンスクリット語でダーナ (dāna) といいます。音写すると檀那となり、「檀那寺」や「家の檀那」といった使い方もしますが、そこにはやはり施す、さらに発展的に、パトロンとか、恩恵を与えてくれる者という意味

が含まれております。

仏道修行としての布施波羅蜜は、ただ単に施せばよいということとはではありません。賄賂のような不純な動機であつては、当然だめですし、自分に入らなくなつたものを処分するような上げ方をするのもよくありません。**三輪清淨の布施**といつて、布施する主体(施者)、布施する相手(受者)、布施する物品(施物)の三つが清らかなものでなくてはならないとされるのです。

仏典にこんな話があります。

釈尊が靈鷲山で説法していたときのことです。マガダ国の王は、豪勢な食事のほかに、たくさんの灯明を捧げ供養されました。一方、城下に住む、一老婆も何とか供養したいと望んだものの、一文のお金も持っておりません。

そこで通行人からお金を恵んでもらつたり、自らの髪を切り、それを売ってお金に換えたりして、わずかばかりの油を買い、それを灯明として捧げました。釈尊の前には、多くの信者からの灯火が明々とともり、老婆の灯火はいかにもみすぼらしく、今にも消えてしまふようなものでした。

ところが、そこに烈風が吹いて、ほとんどの灯明を消し去つてしまいました。ただ一つ、老婆の捧げた灯明だけが、周りを照らし続けたというのです。

これは、財力に物を言わせた王様の万灯よりも、真心を込めた貧者の一灯のほうが尊い、という教えであります。

また、『ジャータカ(本生譚)』という、釈尊の前世の物語の中には、「諸行無常・是生滅法」の後

の偈文である「生滅滅已・寂滅為樂」を教えてもらうために、羅刹（悪鬼）に命を捧げた雪山童子の話や、空腹の老人を救うために、焚き火に身を投じて、我が身を捧げたウサギの話のように、捨身施の事例が幾つか見られます。

ただ、このような布施波羅蜜は、はなはだ厳しく難しい菩薩行であり、われわれ凡夫では実践しがたいものと言わざるを得ません。そこで、もっと容易で、お金のかからない布施があるというところで、『増玉藏経』に「無財の七施」が説かれています。

- ① 眼施……優しい温かいまなざしで人に接する。
- ② 和顔施……優しいほほ笑みをもって人に接する。
- ③ 言辞施……優しい言葉をかける。
- ④ 身施……肉体を使って人のため

社会のために働く。

- ⑤ 心施……心から共に喜び共に悲しみ、感謝する。

- ⑥ 床座施……自分の座席や地位を譲る。

- ⑦ 房舎施……雨露をしのぐ場所などを分け与える。

以上、七つある中で、先ずもって実践するよう心がけたいのは、②和顔施と③言辞施で、『無量寿経』には「和顔愛語」という言葉が出てきます。道元禅師は、『正法眼蔵』の「菩提薩埵四摂法」の巻で、「愛語よく廻天の力あることを学すべきなり、ただ能を賞するのみにあらず。（慈悲の言葉には、よく天を廻転する力があることを学ばねばならない、それはただ賞めるだけのものではない。）」と述べておられます。

これは私自身の体験なのです

が、まだ世間のことが分からず、思い悩んでいたときに、「そう悩むな。この世のことはこの世で収まる」といって慰めて下さった方がおられます。もう、故人となられました。私にとつては、天をぐるっと廻して、真つ暗闇の世界から明るい世界へ引き戻して下さった恩人として、忘れえぬ人となっています。

ですから、布施は、金品などを与える「財施」だけではなく、教えを説き与える「法施」、怖れをとり除いてやる「無畏施」の三施があります。そして、布施する行為は、欲があつてはできません。しかし、「禁欲」を勧めるものではありません。禁欲は、心に歪みをもたらしやすく、あくまで欲は少なく、足るを知る「少欲知足」に心がけるべきであります。

精進料理しよつじんりやうり

「精」とは余念を交えないで一心に修行することであり、「進」とは努め励むこと。つまりは、ひたすら仏道修行に打ち込むことで、一般にも、精を出して努力する、という意味に用いられるようになった。

当然、飲食や言動も慎むことになり、古来から、心身を清める、そのためには肉類を慎むのが精進の際の戒めとされたのである。肉や魚が登場しない「精進料理」の語源は、実はこのように厳しい修行から生まれたものなのだ。

とはいっても、これは仏教が中国に伝わったからの戒律。古代インドの修行僧たちは、肉や乳製品も食べていたから、現在のような菜食主義ではなかったといえる。

しかし中国では、不殺生戒に基つき、植物性の材料を使った料理を精進料理と呼びはじめる。野菜だけのてんぷらが「精進揚げ」、精進期間の前にたつぷり魚や肉を食べるのが「精進固め」となったのは、こうした背景のためだ。

また、精進期間が終わって日常生活に戻るのが「精進明け」。そのとき、思いつき酒を飲んだり遊んだりするのが「精進落とし」。どうやら、一般庶民には、精進は、難行苦行でしかなかったようだ。

また、僧隠元が伝えた「普茶料理」も、精進料理の一種。永平寺流の精進料理が、食イコール修行と厳しいのに対し、こちらは食そのものを楽しむというニュアンスの違いがある。

【注】江戸時代初期に中国からもたらされた日本の精進料理。葛と植物油を

多く使った濃厚な味、一つの卓を四人で囲む形式が特徴である。代表的な普茶料理に精進うなぎ、胡麻豆腐がある。

（『仏教のことは』早わかり事典）

雑記



▼阿弥陀堂寄進

新たに次の方からご応募いただきました。感謝申し上げます。

・戸崎幹正様 一万円（一口）

▼高山まつり

長年の念願であった高山まつりに行ってきました。歴史、伝統の重さを実感させていただきました。ただ、からくり見物の場所取りには、……草臥れました。

お土産には、昔懐かしいげんこつ飴・塩せんべいを買ってきました。

◆出番待つからくり不動

飛驒の秋 沐魚